



おはようロスアンゼルス

倫理研究所U.S.A. 南カリフォルニア倫理の会

7月号会報

2202 W. Artesia Blvd. Unit L Torrance, CA 90504

Fax: (310) 323-6737

2014年(平成26年) 7月1日(火)

NO. 155

倫理研究所U.S.A.の皆様へ

倫理研究所 荒木良仁

早いものでロスアンゼルス
の出張から一ヶ月がたちまし
た。初めてのことなので見る
もの聞くこと全てが新鮮でし
た。空港から出るのもドキド
キしていたくらいです。出迎
えてくれたグレース前田さん
と門園さんにお会いし、暖か
なお迎えと日本語で会話がで
きたことでホッとしました。
町並みから商店から走る車
からさまざま人と、当然で
すが、日本とは違うことを肌
で実感でき勉強になりました。
た。

打ち合わせのときに倫理U
S.A.の皆様にお会いし、遠い
アメリカの地に共に倫理を学
ぶ仲間がいることに、深い感
慨をおぼえました。懐かしい
梅本さんともお会いでき、日
本とアメリカの距離が急に近
しいものとなりました。

橋会長のご経歴もユニーク
で面白かったです。また、皆
様とのつながりに日本とアメ
リカの歴史も感じました。

川田前会長とは親戚が井村
屋さんに新入社員として入
り、川田さんとメールでのや
り取りをしていたことが分か
り、世界は広いのに、世間の

狭さのようなものも感じたの
も印象的でした。

尾崎さん一家の日本語の教
育と倫理が家庭内に生きてい
ることをうれしく思いまし
た。お嬢さんのスピーチにも
感謝です。飯田さんのオフィ
スにもお邪魔してアメリカで
の仕事の様子に少し触れるこ
ともできました。

文化講演会を務めさせて頂
きました。皆様の熱心な役
立つことができたかどうか、
心もとないですが、皆様のフ
ォローのおかげで無事務めを
果たせました。

土佐さんの進行、伊澤さん
の図書紹介、ビデオ映像、滝
川さんはじめ会友の皆様が書
道と短歌の作品の展示で会場
をグレードアップしての会場
設営から受付と、本当に手作
りで作り上げる講演会と心温
まる運営に倫理U.S.A.の良さ
を実感しました。

様々なメディアを使い多く
の方に宣伝をしていただき、
また、矢崎さんの実践報告に
もありがとうございました。フライヤーを
貼っていただいたりと、当日
もたくさんの方々にご参加い
ただきました。ありがとうございました。
益々のご幸福と
発展を願ってやみません。

短い期間でしたが、いろいろ
とロスアンゼルスをご案内い
ただき。準備から最後まで本
当に皆様の真心が伝わり、パ
ワーアップした思いです。特
にグレース前田さん、門園さ
んにはお世話になりました。
心より御礼申し上げます。お
土産もいっぱいいただきました。
また、心のお土産もいっ
ぱいで、一ヶ月たつたいまも
減りません。ありがとうございました。



倫理文化講演会

「家庭のちから」

五月十八日(日) 午後一
時より荒木良仁法人局普及
事業部次席を講師に迎えて
倫理文化講演会が開催され
た。会場はホリデーイン・
トーランス。

朝八時半から倫理オフィ
スでモーニングミクサーを
行い、午前十一時に会場に
集合。舞台設営、受付、図
書販売、文化部展示の準備
が始まった。十二時正午に
記念撮影の後、荒木講師の
下「開会の式」を取る。

午後一時、土佐美代子さ
んの司会で講演会が始まる。
橋勝雄会長の挨拶のあと、
尾崎理子さんが「私の心の
中の宝物」と題して体験発
表を行った。

次いで荒木講師の講演が
始まる。自分の体験の引き
こもり時代、研究所入所時
代のことから家族の愛の大
切さを説かれた。また『家
庭のちから』の中から「食
事ははぐくむ家族の絆」を
上げられ、家族の絆を深め
る大切なことは、皆で一緒
に食事をする「こと」と強調、
和やかな家庭が良い社会を
作ると結ばれた。荒木講師

の語りかけるような講演に聴衆は皆静聴していた。

講演の後、DVDによる本部の活動紹介、スライドで南カリフォルニア倫理の会の活動紹介、倫理図書紹介が伊澤潤子さんのナレーションで行われた。

午後三時、司会の閉会の言葉をもって講演会は終了した。

最後に荒木講師の下、「閉会の式」を取り、橋会長の三本締めで会の発展を祈り、会場の全てを片付けて本年度の講演会行事は終わった。

荒木良仁先生、本当にありがとうございました。

展示

(参加者百一名)

今年は講演を行う部屋の後ろに作品を並べたので参加者や会員はさまざまな短歌や秋津晝道の展示をゆつくりと鑑賞したり、熱いコーヒーを頂きながら談笑したり、和やかな時がもてた。

懇親会

午後四時、シーエンプレスに移動して夕食が始まる。荒木講師に感謝の乾杯をし、記念品贈

呈。皆良く食べ良くしゃべって楽しい時を過ごした。午後六時、今後の倫理の発展を祈ってお開き、今日の行事の全てを終了した。

尾崎理子さんの体験発表

「私の心の中の宝物」

今は亡き障害を持つ姉が縁で結ばれた障害児の家族で作る「手をつなぐ親の会」での活動、ミュージカル・キャッツ。

障害児にとってミュージカルの練習はつらいものであったろうが、彼等をサポートする家族に家族の大切さを学んだ。自分自身はその手助けをしながら他人の役に立つ喜びを感じていた。このような自分の心の成長は家族が毎週連れて行ってくれた倫理の学びがあったからという感動のスピーチであった。

朝の講話

五月十八日(日)午前八時半より倫理オフィスにおいて『倫理モーニングミクスチャー』を行いました。

本部より荒木良仁次席をお迎えし『菜』「第七条 疾病信号」

についてご講話を頂きました。

最初は次席の自己紹介。十九年前に倫理の会に入会しその後倫理研究所に入所された。富士高原研修所で二年間研修生として過ごし、その後富士研修所に勤務した体験(水水での裸や滝行等)をジェスチャーを交えて楽しそうに話され会場の笑いを誘う場面もありました。その後講話に入り、心と体は一つながりである

と強調し、その人の健康状態が脈拍で分かるとのこと、武士はその日の脈拍で出陣を取りやめることもあったとか・・・

東洋医学健康法として爪を押し

刺激することで体調を整える。五本の指それぞれが体の内臓と他の部分と深いかわりがあるゆえ、刺激を与えることで改善することが出来る等、その他次席の体験を交え会員と共に実演し和やかな笑いも取り入れられた。

病気になるのは不自然な心の状態である時に起こる事の実例として女性会員の話をされた。

会員は子宮筋腫を患っていた。会員は酒乱の父に対して怨みを持っていて父親を許すことが

出来なかった。生活指導を受けたとき、父親が何故お酒を飲まずにおられなかったか、その時の父親の気持ちに心を向けることを指導された。会員は父親の生い立ちを知り苦労が心にしみ、その時の辛い立場を理解することが出来た。許せる心になり蟠りが解けた時、病が癒された。

会員は子宮筋腫になった事は苦しい事ではあったが、病を通して長年の父親に対する恨みが解けた。その事を思うと病気事態に心を奪われると苦しみではあるが、病気になった事で新たな気付きが与えられる。自分の病気に対し「ありがとう」と思える自分にならせて頂けた喜びがある。

病が「もつと立派に、もつと幸せに導かんとする天の自愛なり」と心に深く刻み、(ありがとうございます)と受け止め、病を包容しましょう・・・

丸山敏雄先生の文章を引用され、色々な話を盛り込み、熱心にご講話下さった。

参加者三十二名 (梅本和子記)

図書販売

販売冊数二十七冊
売り上げ二百六十九ドル

『家庭のちから』はおかげさまで完売いたしましたのでご希望の方には取り寄せます。図書係りにご注文下さい。

横断幕

滝川政和さんの書です。

PR活動

尾崎勝宏普及部長がTJSラジオの佐伯和代さんに講演会のお知らせを入れてもらいました。

飯田隆倫理ビジネスネットワークーフは、日系社会の主だったメディアに掲載をしてくれました。

写真

尾崎よしみさんがプロの方に頼んでくれました。

音響システム

梅本豊造さん、飯田隆さん、前田得志さんです。

活動紹介

飯田隆さんが編集しました。

文化部展示

展示枠は梅本豊造さん、作品作業は滝川ご夫妻がしてくれました。

懇親会

前田グレース経理部長は講演会会場ホテル、懇親会料理の予約などが楽しめるように計らってくれました。

その他会員全員が自分の役割を一所懸命勤めました。皆様お疲れ様そしてありがとうございます。



講演会の反省

五月二十五日(日)朝の集いで、反省として集客が足りませんでした。年々参加人数が減っています。フライヤーや手紙を送るだけではなく、お声かけが必要ではないでしょうか、という意見でした。

良かった点は「作品展示」です。従来の廊下ではなく、講演会場ホールの後方に作品を展示したので多くの聴衆がゆつたりと鑑賞しておられました。

スライド

六月八日(日)モーニングセミナーの後、お茶の時間に尾崎よしみさんが講演会で撮った写真をスライドにしてみんなに見せてくれました。楽しい思い出がよみがえりました。

オフィスのスクリーン

オフィスにスクリーンが設置されました。これからはパワーポイントで色々な活動が出来ます。皆さんアイデアを出して活用しましょう。

実践報告

『菜』を読む
一斑 滝川歌子

私が木村先生の勧めで秋津書道講師認定試験を受けた時、倫理についての簡単なテストがありました。

その中の一つに、『万人幸福の菜』に関する問題があり、それは菜の八条で、(一)は健康の父、(二)は幸福の母、とあって、空白部に語彙を入れよ、というものでした。

もう何十年も唱えて来た言葉なのに、ずつと気を入れて読まず、つらつらと会長の後を続けて読んでいたに過ぎなかった証拠でしょうか。考えても考えても語彙が思い浮かびませんでした。全く恥ずかしい思いをしました。

その後私は、時折十七か条の上部を紙で隠して、言葉と意味を考えながら、しっかりと憶える実践をしています。

明朗は健康の父、
愛和は幸福の母

おめでと〜(づ)〜(ぎ)〜(い)〜(ま)す

『しきなみ』六月号

群策集 (西東京・海外)

入選 門園美枝子

水道のゆるみし蛇口キユーと締め最後の暦

めくる大晦日

入選 松永典子

四世の孫も真似ごとと杯に水を屠蘇とて飲ます夫なり

『秋津書道』六月号

競書

八席 堀井幸江 高等部 (東京)

入選 梅本豊造 々々

入選 前田グレース 一般部 (東京) 行書

九席 小倉治望 一般部 (東京) 楷書

入選 高橋ひとみ 々々

入選 ノーリスてるみ々 々々

少老省

彦形参

9席 小倉 治望

こんなにも悲しい短歌があるだろうか。しかしこんなにも希望のこもった短歌が詠めるのだ。「しきなみ」とは何と力のある短歌会だろうと思った。

声を出して読んでいくと胸が詰まり、読み終えて石巻支苑の皆さんの幸せを祈らずにはいられなかった。

内田信子

日高見の歌友よ逃げる生きのびよ海逆立ちて大津波来る

木村伴子

高台を目がけて逃る一目散地震の後の一人の決断

橋本英子

津波潮破りし田圃に農民はただ呆然と畦に立ちおり

相澤郁子

また明日約束したのに大波がさらって行ったあなたのあした

相澤忠勝

大津波十五日経て口遊ぶ今日から上を向いて歩こう

杉浦みち子

あの日から季節を忘れひと歳すぎ今年の春は二年分の春

『ひたかみ』は倫理オフィスの図書棚にあります。ご自由にお読み下さい。

しきなみ短歌

レイク・タホに族集いて朝餉取る顔揃えるがただただ嬉し

松永典子

風に揺れブドウのツルは絡み合い緑のトンネル作りてゆくも

草野律子

あかんたれ鉛のごとき我が体起きては寝る手術後の日々

摺木洋子

雨上がり見上げた空は久々に青く広がり鳥の群れ飛ぶ

松元依子

歩行器に頼らず歩く夫の背に歓声あげる孫達が声

滝川歌子

五月晴れ真夏日続くロスの地に桜満開ほろほろと散る

奥本洋子

裏庭に望遠レンズのカメラ据え寒さこらえて月食待ちぬ

杉野和子

友たちと日系人の博物館キャンプ(収容所)生活垣間見に行く

長谷川松子

日々の中やることあれこれ重なりて気の澄む感じ遠ざかるなり

塩出笑子

雨音で目覚めた朝は週末でよかったよかったもう一眠り

伊澤潤子

桜咲きカリフォルニアの花見会多くの人種が集い楽しむ

飯田隆

まるまると太った孫も芳(いたづ)きて食事進まず薬も戻す

梅本豊造

恥じらいつケーキの上のローソクを孫らと共に吹き消す夫は

梅本和子

はらはらと風に散りゆくジャカラダ初夏をすぎ行く夏雲のわく

門園美枝子